

# J Sights Corporation

## コラーゲンパウダーの市場動向と見通し

2025年3月28日

Jサイツ株式会社 本田

弊社はヨーロッパ産及びブラジル産のコラーゲンパウダーを取り扱っている。一般的にコラーゲンというと美容等でなじみの強いものだが、弊社が取り扱っているコラーゲンパウダーは機能性を持ったタンパク質である。【機能】とは水や油を抱え込む力を持っており、熱を加えた時の離水も少ない。主に畜肉加工品に使用されており、歩留まり/生産性の向上・コスト削減・食感の改善・うまみ/風味の増強など様々な用途/目的で使用されている。また、タンパク質含有量が非常に高いことから、最終製品のたんぱく質数値向上も図れる。ますます高齢化が進む日本の中で、畜肉加工品だけでなくより多くの商品に使われる可能性があり、弊社としても期待している商品である。

今回のレポートでは現在のコラーゲンパウダーの市場動向と見通しについて記載する。なお、今回のレポートでは弊社が関係しているいくつかのサプライヤーから取得した内容であり、グラフや図などが表示できないことはご理解いただきたい。



スペインの生ハム(ハモン・イベリコ)

日本のコラーゲンパウダーのマーケット規模はサプライヤーからの聞き取りベースで年間 800Mt 程度と大きくない。しかしながら、過去 10 年ほどは同数量の需要があり非常に安定したマーケットと言える。商品価格は原材料である豚・牛・鳥などの皮価格によって大きな影響を受ける。2023 の豚皮原材料危機によって豚皮価格が急騰したことによりポークコラーゲンパウダーも大きな価格変動があったが、現在は豚皮原材料危機の前の水準に戻っている。



価格が戻った理由は、世界豚皮購入量の約 60% のシェアを持つゼラチン業界からの引き合いが弱いことにある。ゼラチン業界は豚皮原材料危機の際に値上げをしたものの、最終ユーザーがゼラチンの代替品を購入するようになり、ヨーロッパの多くのゼラチンメーカーはいまだに多くの在庫を抱えている。1 年程度は現

# J Sights Corporation

在抱えている在庫を減らしていく傾向が続くと考えられており、豚皮価格及びポーコローゲンパウダーの価格についても安定した価格となることが予想される。

コラーゲンパウダーの主な使用業界である畜肉加工品メーカーの需要は、少々弱含んでいる。決算を見ても増収減益という企業が目立ち、理由は値上げを行ったことにより増収は確保できたものの、原材料や人件費の上昇分をすべては価格転嫁できていないということが考えられる。しかし、一部の企業では昨年比増益も確保していることから、今後はより安定した需要が見込まれる。



上記の通り、現在コラーゲンパウダー市場は供給面及び価格面でも安定しており、今後とも安定が続くと弊社は予想している。そのため、各品種コラーゲンパウダーを利用した製品開発や新しい業界向けにコラーゲンパウダーを紹介するには絶好の時期と考えている。より多くのお客様へ訴求し、より豊かな食生活を日本へ届けていきたい。



J サイト株式会社は、美味しい日本の食文化を縁の下から支える食品原料を取り扱っています。詳細はお気軽に[お問い合わせ](#)ください。